

「平和の俳句 5」

2015年05月02日

「東京新聞」の「平和の俳句」を楽しみにしている人は多いだろう。4月に掲載された句から感想を書きたい。外国からも句が寄せられるようになった。「いつ時分三八なしに紅葉散る 朴（パク）志旋（ジソン）22歳 韓国亀尾（クミ）市」<金子兜太 南北を分断する北緯三八度線、早くなくなれと願う句。平和を待望。><いとうせいこう 日本にとどまらない平和の俳句が韓国から。平和は普遍。>38度線の板門店に行った時、緊張し切った北朝鮮の兵士が印象的だった。東西ドイツは統一したが、韓国、北朝鮮の合同はまだ遠いだろう。「平和の句読みて涙す喜寿まちか サミュエル横地 淑子 77歳 米国ミドルタウン市」<いとうせいこう コネティカット州から一句。俳句を書いたことのない作者が思わず。><金子兜太 深い感受性を受け取る。「涙す」は「喜寿まちか」だから、とは俗評。>人は年を取ると、何より平和に暮らせることを願うのではないか。

高齢者の句は心を打つ。「九条をナースに語り看取らるる」 神戸（かんべ）道（みち）85歳」<金子兜太 八十五歳の人にして書ける句。ナースの顔く様子も見える。><いとうせいこう ひとつの人生の物語を一句に縫い上げた。次代へと願いは続く。>死の真際において、平和を願う精神の高さに敬服する。「戦なき惑星となれ春よ来い 大田吉穂 83歳」<金子兜太 「惑星」という語感が、「戦なき」と結び付くことによって奥行きを加え、「春よ来い」と言われて美しさを増している。>スケールの大きさに驚く。地球も惑星の一つである。宇宙から見れば、地球の戦など愚か極まりないことであろう。

子どもの句は楽しい。「へいわとはおく万円よりいいものだ 浦川日向（ひなた）8歳」<いとうせいこう 八歳の子にとっての「おく万円」はどれほどか。ほとんど地球上の金すべてなんじゃないか。金にかえられないんだ、へいわは。>大人の現実金は求めて戦争をしている。「言葉こそ戦争終わらず武器である 熊谷真由（まゆ）15歳」<金子兜太 優しい言葉が大切。これがあれば戦争などない、と中学生真由さん。><いとうせいこう 中学生が喝破する言葉の効能。話しあうこと考えることの力を指す。>安倍首相は「積極的平和」「国際平和支援活動」と平和とは真逆な言葉で戦争する国を目指している。

深刻にさせられる句がある。「シベリアの捕虜六年で貝になる 柏マサ枝 74歳」<いとうせいこう 戦争体験者は多くを語らない、という。語りようもないのが戦争なのだろう。言葉を奪うほどの体験を強いて、心を押しつぶすのが。>香月泰男の『シベリア・シリーズ』の重い画を、またシベリア抑留者の残酷な体験を描いた辺見じゅんの『収容所から来た遺書』を想う。「テロかなしゆえに智を説け啄木忌 藤田雅美 64歳」<金子兜太 啄木は智の人だったと作者は言う。平和の基礎は豊かな智なのだ。><いとうせいこう テロを力で抑えることはできない。ゆえに…と詩人の忌日に思う。>啄木は「ココアのひとつ」という詩を書いている。「はてしなき議論の後の/冷めたるココアのひとつを啜りて/そのうすにがき舌触りに/われは知る、テロリストの/かなしき、かなしき心を。」智はテロリストの悲しき心を知っている。反対者をテロ呼ばわりする風潮は怖い。

明日は憲法記念日である。毎年「5・3 憲法集会」が「日比谷公会堂」で行われていたが、今年は横浜の臨港パークで開催される。大勢の参加者が集まることを期待する。安倍首相は国会に法案も出てないのに、米国に行って、自衛隊をいつでもどこでも派遣する法整備を約束している。国民に向けてなく、米国の意向ばかりに添っている。「戦後レジーム」からの脱却と言うなら、米国追従からの脱却こそが重要ではないか。